



妙の光

通刊74号 復刊53号

2006年3月16日(季刊)

角田山妙光寺 発行

新潟県新潟市巻町

角田浜 〒953-0011

TEL 0256-77-2025

サンショウウオの卵

春の到来を告げるひとつに、このサンショウウオの卵がある。境内を流れる沢の溜まりに真っ白なゼリー状のかたまりが、水中の枯れ枝にいくつも絡まっている。水はまだ冷たいが、水面に反射するやわらかい日差しとともに春を実感させられる。

現在日本には十九種類のサンショウウオが確認されているそうで、図鑑によるとクロサンショウウオの卵と思われる。東日本の山間部に広く住み、成体で十五センチ前後であるが、これにはなかなか出会えない。

蛙と同じ両生類だが蛙のように移動できないぶん、自然環境の変化にとても弱く、絶滅が心配される種類も多い。山の腐葉土と清水が生育環境のポイントだそうで、こうした小動物にも快適な境内であり続けたい。

清水湧く岩のさざれや山椒魚

島田 雅山

改

宗

小川英爾

がたいことに問屋の人たちが皆さん親切だったことがいまだに忘れないという。この間に妻が突然子供を残して京都の実家に戻ってしまい、また叔母さんとのいざこざからWさんはお経を読むことを止めてしまった。

Wさんの生家は浄土真宗の檀家だった。七人兄弟の五番目に生まれ、軍隊生活から戻ると母親の勧めで関西に住む母の妹の所に養子にいった。その叔母さんが熱心な日蓮宗信者で、家に安置する日蓮聖人に毎日お経を欠かさなかった。そこから工場に通う生活を続け、昭和十九年に京都の女性と結婚し長男が生まれた。翌二十年三月、勤め先の工場で機会に挟まれ親指以外の四本を切断する事故に遭う。そのショックもあつたのか、退院してか自然に叔母について法華經を読み始めた。

八月、空襲に焼け出されて一家四人で郷里の巻に戻ってきた。町内にある浄土真宗寺院の敷地の一角を借りて小さな家を建てる。Wさんが始めは玩具を、後には衣類を仕入れて神社の境内で戸板一枚の上に広げて商いをし、生計を支えた。貧しかったので一所懸命に働いた。あり

昭和五十年にノセさんが乳がんで手術、翌年秋に再発して入院となつた。このときしばらくお経を上げていないことを思い出し、家に帰ってお参りすると、なぜか涙が溢れて止まらなかつたという。あけて一月十二日家に連れ帰り、二十九日に息を引取るまで看取り続けた。叔母さんと同様に浄土真宗寺院に葬儀を依頼した。しかし後

に、たびたび夢に現れるので妙光寺に移ることを決意、三回忌を機に双方の寺の了解を得て墓も移転した。

以来、商いを息子夫婦に一切任せて読経と写経に励む毎日。昭和五十六年に角田山観音堂百カ日連続登山を、六十年秋には岩屋七面様に百日間通い、毎日八～十時間かけて法華經二十八巻を読む修行を達成した。「貧乏を授かって生まれてきましたが、今こうしていられる感謝していいます」と笑顔で語る。

『妙の光』平成四年四月号の「信心」のページ掲載した話である。このWさんが九十歳で一月に亡くなられた。昨年秋に胃ガンを診断され、手術を望まないで病院で過ごした末のことだつた。Wさんの後を継いで衣料品を商う露天商を営んでいた一人息子が、その仕事を辞めていたのでずっと病院に付き添い、家族がそれを支えた。隣町の曾根の葬儀会館で葬儀をするというので、その理由を尋ねると「いつも親父が曾根の市で露店を出したのがこの葬儀屋さん店の前で、こここの社長さんには大変お世話になつたんです」とのこと。奇しくも同じ頃にこの社長さんも亡くなられて、葬式が一日違ひだったのも何かの縁か。

お通夜の席では住職として何がしかの法話をすることを心がけている。Wさんのお通夜ではこの文章をそのまま読ませていただいたのだが、これがきっかけで通夜振る舞いの席上さらに色々な思い出話が交わされた。「焼け出されて関西から来たときはまるで親子の乞食同然で、母親が我が子とわからずに『おもらいさんなら裏に回つてくれ』と言つたそうです。また戸板一枚の商いを始めたころは、指がないということで露天商仲間からとてもいじめられたそうです。それを助けてくれたのが問屋さんだつたと聞きました。本当に苦労した兄でした」と妹さん。息子さんは「お寺の裏の岩屋に百日間通つたときは、指の無い手で自転車にのつて片道十キロでしょ。雨風になると心配で迎えに行つたのですが、『俺の修行なんだから余計なことをするな』っていつも叱られました。でも、『岩屋の中でも天上からの雪でお経本が濡れるから、ビニールでテント建ててくれ』と言われたときは嬉しかったですね。指が無いから自分じゃ紐が結べないんですよ」。家では頑固で厳しいWさんも孫やひ孫には優しかつたそうで、お通夜と葬儀での若い人たちの別れを惜しむ涙が印象深かった。

寺と檀家は江戸時代に幕府の政策で決められたことに始まって、そこでは信仰は二の次になっていた。それでも寺の境内に墓があり、また先祖代々から檀家となると、信仰を理由に寺を代わることが今の時代でも少ない。それでも最近は「親の葬式で戒名料として二百万円をお寺から請求された。そのお寺の檀家をやめることはできないでしょうか?」なんて、主に関東の人から相談の電話を受けることが多くなったが。そのような例は別としても、檀家制度のせいで信仰を理由に寺を代わることが昔も今も多くはないが、それでも昔の方が今よりはあつて、昨今、熱烈な信者、人は少なくなっているように思える。

貴重な存在のWさんは強い信仰心を貫き通し、厳しいながらも充実した人生をまつとうされた。住職としてのわが身を振り返りつつ、深く敬意を表して葬儀を勤めさせていただいた。

「信仰に安泰が恵まれる／ わが身、わが妻、わが子のことを／ 思わぬ人は一人もいない でもその安泰は／ 法を信じ仏を尊ぶ心に あることを知る人は少ない／ 信仰を老後のことと考えたり 生活の安定を得てからと思つたら／ それは主客顛倒だ 信仰に安泰が恵

まれるのだ／ 仏を敬い、法を信じ 共に生き共に栄える生き方を知れば／ あなたの家庭に安らぎがもたらされる 日蓮聖人はそう教えている』(『共に生き共に栄える』岩間日勇)



自分のことは自分で

曾根 小林 ハツさん（九十一才）



す。社交ダンスも若い頃お世話をなったた
お家のお嬢様の相手をして覚えましたか
ら、今は踊れないけど上手いか下手かは
見てわかりますよ」。

身体も気持ちも若いのに驚かされるハ
ツさんだ。最近はカラフルな細い紐を結
び合わせて、ブローチや小さな人形を作
ることに熱中している。この人形が鞄や
携帯電話に着けると可愛いと若い人に
人気で、ブローチはお年寄りのおしゃれ
にいいと希望者多く、注文がくるほど。
「材料費ももらわないけど、喜んでもら
えればね」と嬉しそう。

その倉一郎さんも亡くなり、今は次男
夫婦と一人の孫娘の一家五人が仲良く暮
らす。「生まれた実家は法華宗本山本成
寺の檀家役員で、いまの私は日蓮宗で養
子に出した長男が妙光寺の役をさせても
らっています。これもご縁ですね。以前は

行事ごとにお寺参りを欠かさなかつたの
ですが、バスの便がなくなつてから不便
でしてね。でもお嫁さんや孫の仕事の休
みには車に載せてもらつてお参りするの
が楽しみです」と、にこやかに語る。

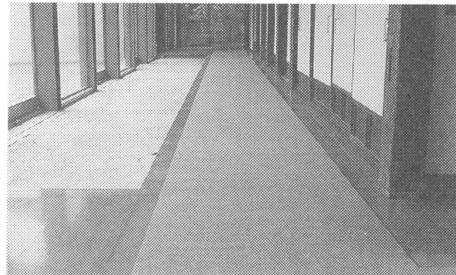
頭は元々駄目ですが、目も耳も不自由は
ありません。近頃足が痛くて近所のお友
達の所に行くにも車を押して行きます。
若い頃からコーヒーが好きで、今も自分
で朝たくさんいれて暖めては飲んでま

また自分や孫のセーターを編んだり、
去年の夏は浴衣をほどいて夏の服を縫つ
た。「親に自分の物は自分で作れと教わ
りましたから、紋付でも羽織でも帯もみ
んな作りました」と。

ハツさんは金物を商う裕福な家に生ま
れ、女学校に上がるために十四才で東京
の親戚に預けられたが、勉強嫌いで手伝
いしながら東京暮らしを楽しんだ。やが
て曾根出身で商業美術を手がける倉一郎
さんと結婚。倉一郎さんは講談社の仕事
で、飛び出す絵本を考案するなど仕事も
順調だったが、空襲で焼け出されて実家
のある曾根に移り住んだ。しかし田舎に
はこうした仕事はなく、生活は厳しかつ
たが、ハツさんの持ち前の明るさで乗り
越えてきた。

ハツさんは金物を商う裕福な家に生ま
れ、女学校に上がるために十四才で東京
の親戚に預けられたが、勉強嫌いで手伝
いしながら東京暮らしを楽しんだ。やが
て曾根出身で商業美術を手がける倉一郎
さんと結婚。倉一郎さんは講談社の仕事
で、飛び出す絵本を考案するなど仕事も
順調だったが、空襲で焼け出されて実家
のある曾根に移り住んだ。しかし田舎に
はこうした仕事はなく、生活は厳しかつ
たが、ハツさんの持ち前の明るさで乗り
越えてきた。

お盆法要



廊下に敷いたカーペット

廊下にカーペット

玄関から本堂への廊下は板張りで、冬場は足が冷たくご不便をおかけしていました。スリッパはなじまないので、前々からカーペットを敷いてはどうかと

台所の改修工事を計画し資金勧募のお願いを申し上げたましたが、予定額を大幅に越すご協力をいただきました。篤くお札申し上げます。詳細を9ページでご報告しました。

『ご判さま』

例年の『ご判さま』を四月二十九日（祭日・みどりの日）に行います。新緑と花に包まれた境内を雅楽と稚児に先導された輿が境内を練り歩き、本堂で大法要を営む古式ゆかしい行事です。以前はこの地方に本格的な春の訪れを告げる盛大な祭りとして、丸二日間に渡り人々が列を成して集まり、境内には露店が建ち並ぶ賑わいでした。今年は冬の百日間の荒行を終えた僧侶による、水行も予定しています。

ので、宜しくお願ひします。角田浜地区の方には事前の幟立て作業と、当日

檀徒を三地区に分けて、三年に一度の当番をお願いしています。今年は山本組で

ので、宜しくお願ひします。角田浜地区の方には事前の幟立て作業と、当日

の輿かつぎを毎年担当していただいて

います。

行列と法要に出ていただくお稚児さんを募集しています。詳しくは10ページをご覧下さい。

住職候補の公募

前号でお知らせしました次期住職の候補を一般から公募し、妙光寺で育成する



昨年の『ご判さま』、山門での法要

ています。
ご参拝ください。

県内の檀
信徒には塔
婆供養と祈
願の申込書

を、事前に
お届けしま
す。当日の
お手伝いに
檀徒を三地区に分けて、三年に一度の当
番をお願いしています。今年は山本組で
るので、宜しくお願ひします。角田浜地
区の方には事前の幟立て作業と、当日
の輿かつぎを毎年担当していただいて
います。

ので、宜しくお願ひします。角田浜地区の方には事前の幟立て作業と、当日

の輿かつぎを毎年担当していただいて

います。

行列と法要に出ていただくお稚児さんを募集しています。詳しくは10ページをご覧下さい。

計画を対外的に発表しました。毎日新聞、読売新聞が全国版で掲載し、反響が少しづつあります。同時にNHKや東京、新潟の民放テレビ局から関連して取材したいとの申し込みが来ています。

人の将来に関わることですから事は簡単には運ばないでしようし、軽々に進めつもりもありません。じっくりと取り組んで行きたいと考えています。

日蓮宗を始め、多くのお寺では後継者の不在が問題になっています。妙光寺では今すぐ後継者に困っているわけではありません。ただ檀信徒、安穏会員とともにその数が増えかつ広範囲になり、住職の仕事も多岐にわたっています。さらに今後のお寺のあり方を考えたときに、妙光寺の体制をより強化していく必要があります。そのとき単なる事務係でなく、住職や鎌田、寺庭婦人、お手伝いの方々と一緒に動き共に成長して、ゆくゆくは将来を担っていく人を育てていこうというものです。

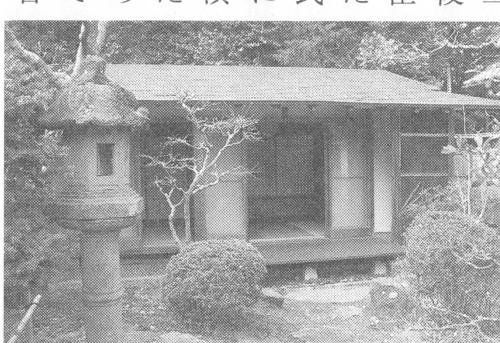
全国には約七万八千のお寺があります。しかし時代の変化で昔のままのお寺

ではやがて立ち行かなくなることが言われています。今後のお寺のあり方を考える勉強会や、研修会も各地で開かれるようになります。その中で妙光寺は多く人が集まり、環境が整い、基金運営が

軌道に乗っている等々先端を行く寺として知られています。さらに10年先、20年、30年先を見越した寺作りのための人材（後継者）育成であると、ご理解ください。

茶室の改修

妙光寺には茶室と呼ぶ離れがあります。昭和二十九年、後に総理大臣に就任した石橋湛山氏を妙光寺に迎えて講演会を催した際に建てられたものです。氏は日



茶室に改修する離れ

蓮宗のお寺に生まれて僧籍を持つた平和主義者として知られ、病氣で総理大臣の職を惜しまれて早くに辞したのですが、長く在職していたら今の日本はもつとい国になっていたと言われています。

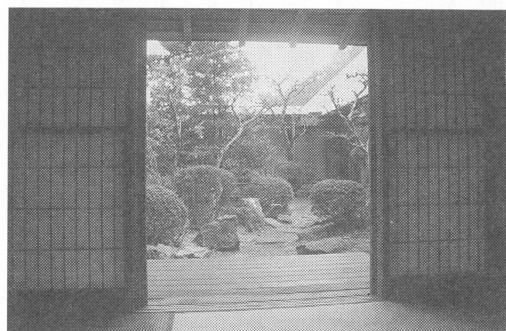
かような経緯でできたもので本格的な茶室ではありません。そこにお茶道具一式を納め、水屋の改修、畳を入れ替えて炉を切る、といった改修工事を故田代幹夫、ご夫妻の親族からお申し出をいただきました。完成したら茶室開きをしたいと考えています。その際はご案内します。

「お会式桜（秋桜）」の植栽

境内に秋に花の咲く桜が一本あります。日蓮聖人が十月十三日に入滅されたときに屋敷の桜が一斉に開花したという故事にちなみ、この桜をお会式（おえしき・日蓮聖人の命日の法要）桜と呼んでいます。

秋に咲く桜は3種類あるそうですが、新たにこの苗木十本を植えてくだると、故豊島重造ご夫妻の親族からお申し出をいたきました。豊島さんもご親族も林

業の専門家で、その立場から境内の緑化に協力したいとのご意向です。今回は同時に境内の老木の健康診断を樹木医に依頼してください、今後の管理の参考にしてくださいとのありがたいお申し出もいただきました。



室内から眺めた中庭

この「初めての参籠修行」が入門編とすれば、初級編に当たる二回目が三月十八、九日で、こちらは十二名の参加をいたしております。

TOTO新潟支店での講演が盛況

東洋陶器のTOTO新潟支店主催の市民公開講座で、住職が「自分らしいお葬式とお墓を考える」と題して講演しました。新潟日報紙面で告知され、定員四十人のところ会場一杯の六十人でお断りしました。講演終了後に個別相談を希望する人が列をなし、半分近くは時間切れで後日に直接連絡してもらうことにしました。主催者も関心の高さに驚いていました。前号でお知らせしたせいか、安穩会員の方もかなり見えてくださいました。

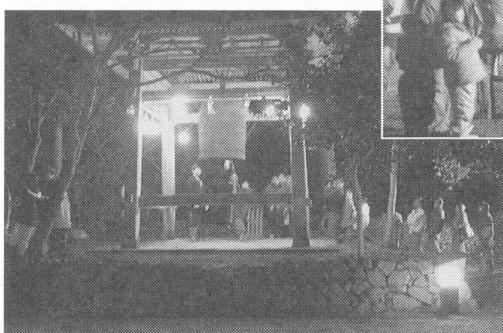
古いニュースですが

昨年末の除夜の鐘に大勢の方が集まりました。穏やかな天気に恵まれて雪も無く、早い時間から若い人を中心に続々と集まり長い列ができる、受付が混雑。何

処かのお宅にホームステイでもしているのでしょうか、外国人女性に姿もありました。開けた元旦も春のような陽気で日差しの暖かい一日で、沢山の方のお参りをいただきました。



「除夜の鐘」風景



台所改修工事寄金勧募の報告とお礼

築二十五年を経て老朽化した台所の改修工事を計画し、その経費のご寄付を先般お願いさせていただきました。お蔭様で予定を大幅に超える金額が、左記のように寄せられました。皆様の篤いお志に心から感謝申し上げます。

寄付金総額 一一四七万円 (五六五件)

当初の計画は必要最低限の内容で予算計上をしましたが、せつかくのことですので設備機器の品質を上げたり、外部の補修を新たに加えた設計に変更して、現在見積もりを依頼しています。今後、業者からの見積もりを受けて役員と協議の上で正式決定し、五月の中旬から一ヶ月半の工事予定で着工したいと考えています。

厳しい経済状況のなか、淨財を賜りましたことに改めて篤くお礼申し上げます。次号で工事完成のご報告をさせていただきます。



お稚児さん募集

二百年は続くといわれる妙光寺の春の伝統行事『「」判さま』に出ていただくお稚児さんを募集します。

陽光あふれる境内を雅楽の演奏を先頭にお練り（行列）して、本堂での法要に参列。最後に身体健全、発育増進、学業増進のお加持祈祷を銘々に行います。檀信徒、安穩会員、お友達等などなたでもかまいません、お子さんお孫さんが対象です。衣装に限りがあり定員になり次第締め切りますので、お早めにお問い合わせお申し込みください。

日 時・四月二十九日（祭日・みどりの日）

午前九時集合。昼食後解散。

対 象・どなたでも。三、四才～小学一年生くらいまで。

付き添い・一名

衣 装・子供の白足袋だけお持ちください。付き添いは簡素な

正装で。

員・男女計十名。

費 用・一人五千円。

衣装、お札、記念写真、記念呂囁、昼食の全てを含みます。



昨年の稚児行列風景

三二修行体験参加者募集

第三回「一泊二日・初めての参籠修行」

趣旨・妙光寺に宿泊してお経や作法の基礎を練習し、住職や参加者とともに語り合い、写経を体験して三重塔に納めます。

期日・五月十三、十四日（土、日）

対象・妙光寺の檀信徒、安穩会員及びその紹介者。

定員・十五名

費用・一人一万三千円（含む、一泊三食、寝具、写経用品）

申込・氏名、年齢を添えて妙光寺へ

日程・一日目 午後一時半開始、講義、お経と作法の練習他。

二日目 朝のお勤め、写経、まとめ練習、法話、納経法要、
昼食後解散。

* 詳細は参加者に直接お知らせします。



生前契約



遺言書と違い、裁判所や弁護士も不要ですから面倒な手続きはいりません。

新潟市内のMさんは数年前にご主人を亡くされ、子供がないので一人暮らしです。健康が優れず心臓発作や急な腹痛があつて不安な日々ですが、幸い住居のすぐ裏がかかり付けの大きな総合病院です。いつでも入院可能な体制にあるそうですね。そのうえ普段は近所に住む姪の方がお世話くださるので、日常もなんとか自宅で過ごすことができます。

しかし、もしものときに葬儀をどうしたらいいか、そのことが気がかりでした。お世話くださる姪さんも病気を抱えていて、どちらが先に逝くかも分からぬのだそうです。そこで「妙光寺に葬儀の一切を依頼したい」という相談をいたしました。

住職と何度も話し合いをし、葬儀とその前後も含めた形を決めて文書にしました。

した。最近耳にすることがある「生前契約」です。Mさんはこれでとても安心でましたと喜んでおられました。

これは四通りの文書になっています。

① 祭祀主宰者の指定－民法の規定に基づいて、葬儀と供養に関するその後のこと

を妙光寺に依頼するという本人からの文書。

② 委任状－葬儀の段取りや形等、詳しい内容を記載した文書。

③ 連絡先名簿－葬儀の際に連絡する方の名簿。

④ 預かり証－必要な全ての経費を積算して予め妙光寺に預け入れ、それに対応しての妙光寺からの預り証。（妙光寺は預かり金として処理し、生前に解約となつた場合は、全額返金します）



新緑につつまれた「杜の安穀」

夏のフェスティバル

第十七回フェスティバル安穀は、八月二十六日（土）です。新たにスタッフとして若い会員の方が加わり、一月から準備会議をスタートしました。昨年の反省点をもとにした話し合いが盛り上がっていますのでご期待ください。

暖かい幸せ

小川なぎさ



らしく体調をくずし病院を受診しました。更年期の始まりのような感じだったのですが、近くに開業したその医師は偶然私が4人の娘を出産した病院の先生で、安心でそれだけで治つてしまふような気さえしました。

えた時、明るく清潔で気持ちの良い台所は念願でもありました。内輪の法事なら手作りの料理を作つていただいてもかまわないよう、使い勝手を考えました。どうぞ遠慮なく夏には完成ですからご利用ください。

住職公募もいよいよ動き出しています。この計画がうまく進んでくれば住職も少しは時間のゆとりがとれて、昔のように台所でふらりと訪ねてきた方々とお酒を酌み交わすことも出来るでしょう。（最近は約束なしではなかなか飲むこともままならず）

なにより、老後に欠かせないのは信頼する医師と、信頼できる友人ではないかと思つたりしています。もうすぐ桜の季節です。落ち込んではいられませんね。

暖かくて穏やかな陽射しの一日が、寒さの後に訪れる回数が多くなると春の到来です。ふきのとうを探して境内を歩いてみたり、梅のつぼみを見つけたりしています。犬のモンタもこつそりぬけだしては日向で気持ちよさうに居眠りをしていて、叱るのもためらわれるほどです。暖かいことをこんなに幸せに感じるなんて、たぶん暗い冬を経験してきた北国の人たちへのご褒美でしう。

お正月を過ぎると静かなお寺ですが、実は新年度のお寺の計画や打ち合わせなどで、内部では忙しくざわざわとしていたこの冬でした。台所の改修工事には皆様に快くご協力をいただき本当にありがとうございました。年々お寺での法事や葬儀が増えていることを考



行事案内



春のお彼岸法要 三月二十一日（祭日）

午前十時半—安穏廟法要

十一時—彼岸会中日法要（本堂）

十二時—おとき

午後一時—お説教（住職）

ゆつくりお参りして過ごしていただけます。おときはどなたでも当日受付で申込みいただければ、召し上がっていただけます。ぜひお出かけください。

『ご判さま』 四月二十九日（祭日・みどりの日）

午前八時半—受付開始

九時半—説教

十時半—山門法要・お練り

十時四十分—稚児音楽大法要・お加持

昼—おとき



午後十二時五十分—住職説教

一時半—施餓鬼法要

・県内の檀信徒の皆さんには事前に志納袋（奉納、施餓鬼塔婆、祈願の各申込用）をお配りします。施餓鬼塔婆は午後の施餓鬼法要で六尺の塔婆を立てて読みあげ、祈願は午前の大法要で読みあげてお札を差し上げます。

・寒百日間の荒行を終えた修行僧の水行とお加持は、大法要の後十一時半ころから院庭で行われます。

あ
・
と
・
が
・
き



雪の多い地域の方々、この冬は大変でしたね。まだ沢山残っていることと思います。妙光寺周辺の降雪は例年と変わらず、お見舞いやらご心配やらいただいた方には拍子抜けさせてしまいました。すっかり春めいて、これだと山野草も桜もかなり早く開花しそうです。皆風邪も引かずに元気に過ごしています。

新潟市合併で事務処理の作業量が増えたり、後継住職候補の話題で新聞掲載され、別の悩み事相談が来たり。頭の切り替えができなくて本誌のお届けが遅くなりました。すみませんでした。

暖かくなつてまたお出かけくださる皆さんにお会いできるのが楽しみです。

（小川）